

令和2年度
京都市総合教育会議

ウィズコロナ時代における
個別最適な学びの実現に向けて
～京都ならではの学校教育を通じて～

令和3年1月21日（木）

1 コロナ禍での学びを止めない取組

2 GIGAスクール構想の趣旨

3 ICT環境の整備状況

4 まなびの「これまで」と「これから」

5 ICTの可能性

6 京都ならではの「リアル」と「未来」

1. コロナ禍での学びを止めない取組

家庭訪問・電話連絡等

健康観察や生活・学習状況の確認
(週1回程度)

学校HPの工夫

理科の実験動画等,
学習コンテンツの
積極配信



「酸化銀の熱分解」実験動画

Zoom等の活用

児童生徒との交流
等



Zoomでランチミーティング

GIGA端末を用いたオンライン授業

他の教室の授業の
ライブ配信 等



【参考：「京都・学びプロジェクト」】

- KBS京都での特別教育番組の放映（4月～5月）等
- 京都新聞・「ジュニアタイムズ」での特集紙面



2. GIGAスクール構想の趣旨

デジタルトランスフォーメーション Society5.0時代

AI,ロボット, IoTの発達による
社会構造や雇用環境の変革

子どもの多様化

学力の定着状況や個性・家庭状況の
多様化, 発達障害, 日本語指導が必要,
特異な才能をもつ など



ICTの環境整備による

誰一人取り残すことのない, 公正に個別最適化された学びの実現

ICTによる授業改善

子どもの学び・育ちと協働の
学びを大切にする教育の充実

3.ICT環境の整備状況

タブレット型コンピュータ (全児童生徒・教職員分)

- ・ 1人1台 (全10.2万台)
- ・ Microsoft365が利用可能



高速大容量の通信ネットワーク

- ・ LAN配線の引き直し
- ・ 無線LANアクセスポイント等の設置

通信速度
約10倍！

大型テレビ

- ・ 各学級に1台
- ・ 65型
(現在は50型程度)

端末充電保管庫

- ・ 各学級に1台
- ・ テレビスタンド兼用

Webカメラ

- ・ 小型軽量タイプ：各校2台
- ・ 高画質タイプ：小6・中3学級数＋
それ以外の学級及び総支は
2学級に1台

全教職員・児童生徒が
同時にアクセス可能

- ・ 総合教育センターの全館Wi-Fi化
- ・ 花背山の家、科学センター等、
教育委員会各所属への学習系
無線LANを整備



- ・ 学校現場のICT利活用、スキルの
向上
- ・ オンライン研修体制の強化 等

教育委員会所属の環境の拡充

GIGAスクール構想

4.まなびの「これまで」と「これから」

一斉学習

これまで

- ▶ 黒板や資料で
教員が内容を
説明

× I C T
学びの深化

これから

- ▶ **大型掲示装置**で
意見を即時共有
- ▶ **動画や音声**による
学習理解



個別学習

これまで

- ▶ 全員同時に
同内容
同量 を学習

× I C T
学びの転換

これから

- ▶ 学習進度に応じた
個別最適化された問題
- ▶ 学習履歴に応じた
個への指導



協働学習

これまで

- ▶ 積極的な子が
発言
- ▶ 控え目な子は
「お客さん」

× I C T
学びの往還

これから

- ▶ **全員が主役**として
情報を編集
- ▶ 多様な意見を即時
共有



これまでの教育実践 × I C T = **学習活動の充実・多様化** (児童生徒)
主体的・対話的で深い学びの
視点からの授業改善 (教職員)

5. ICTの可能性

特別支援教育を必要とする児童生徒

- ・ 音声読み上げ，漢字へのルビ振り
- ・ 大型テレビでの提示
- ・ カメラ，拡大機能，表示変換機能
- ・ プレゼンテーションツールの活用

外国人児童生徒

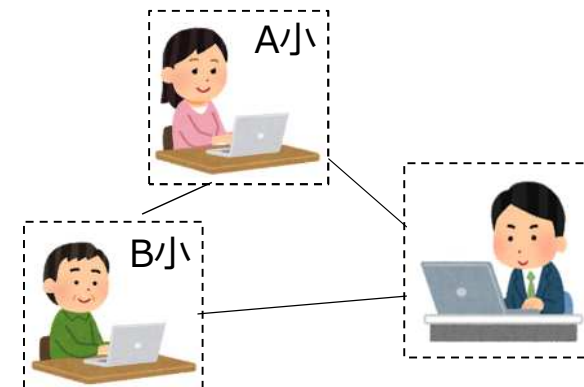
- ・ 遠隔授業により，散在している日本語の習熟度が同等の児童生徒を指導
- ・ 音声読み上げ，漢字へのルビ振り
- ・ 多言語翻訳機能システム

不登校児童生徒

- ・ オンライン授業の配信やデジタル教材等を活用した学習保障
- ・ Web会議ツールを活用した登校支援



マルチデジ教科書



6. 京都ならではの「リアル」と「未来」

京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ
次代と自らの**未来を創造**する子ども

体験的・協働的な活動×ICT

- ・ 伝統文化体験活動（茶道・華道体験 等）
 - ・ 自然体験活動（集団宿泊活動 等）
- （例）カメラ、動画機能を用いた学習の振り返り
体験活動中に情報収集



対話的活動×産学公

- ・ AI技術を活用した協働学習のテキスト化
- ・ 学力や人間関係を考慮した自動グループ編制システム等

※未来型教育京都モデル実証事業
（京都市教育委員会×NEC×京都大学）



ICT環境の整備は手段であり目的ではない
これまでの教育実践とICTの活用を**効果的に融合**し、より質の高い学びへ

主な視点

学校教育における一人一台PC端末の効果的な活用

- ICT活用の充実に向けた環境整備

- 対面指導とオンライン活用のハイブリッド型による教育活動の展開

- デジタルソフトウェア・教材の活用等による個に応じた「深い学び」の実現

- 臨時休業時のオンライン授業等の取組充実

- 多様な環境にある児童生徒への切れ目ない支援
特別支援教育を必要とする児童生徒
外国人児童生徒
不登校児童生徒

新しい生活スタイルの下での京都ならではの体験的・協働的活動の推進

- 茶道・華道体験の実施など、文化を基軸とした教育施策の展開

- 自然体験活動など、実体験を通じた広い視野と豊かな感性の涵養

- 地域等での職場体験活動など、系統的な生き方探究（キャリア）教育の展開